

地域に愛され地域と歩む長生特別支援学校の魅力と課題

1 本校の魅力の概要 ～海の恵みと地域の愛情に育まれて～

本校は、昭和52年に千葉県立茂原高等学校旧校舎を仮校舎に開校し、その翌年に長生郡一宮町の現在地に移転を完了しました。東京2020オリンピックのサーフィン競技会場となった釣ヶ崎海岸に近い、海まで400mという自然豊かなすばらしい環境にあります。平成27年の千葉県立大網白里特別支援学校新設に伴う分離により、現在は小学部から高等部までの75名の児童生徒が学んでいます。

養護学校時代から「潮風に向かって育て長生っ子」のスローガンのもと、海の恵みを題材にした教育活動が盛んに行われてきました。地域ボランティア「白子風の会」の皆様の御支援による地引き網体験は、本校の年中行事として、様々な学びの機会でした。

釣ヶ崎海岸が東京2020オリンピックのサーフィン競技会場に決まってからは、オリパラ教育の一環として中学部と高等部の生徒が海岸清掃を行いました。



サーフィン大会見学 初代女王松田選手と記念撮影

また、地元サーフィン業組合様の御支援によるサーフィン教室も行ってきました。車椅子利用の小学部児童がプロサーファーの支援でサーフボードに立ち乗りして満面の笑顔を浮かべると、参観保護者からは「すごい」「ありがとう」「うれしい」の感謝の言葉がうれし涙一杯に繰り返されました。サーフィン教室以外にも、小学部は、令和元年5月7日に釣ヶ崎海岸で開催された第1回「JAPAN OF SURFING」の大会を見学し、初代女王の松田選手と交流しました。

そして、令和元年度の1000か所ミニ集会は、「東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて地域で連携できること」のテーマで開催しました。中学部と高等部の生徒も参加して、本校のオリパラ教育についての報告を行いました。話し合いでは、一宮町釣ヶ崎海岸で実施されるサーフィン競技を題材に、地域が一体となって取り組む「おもてなし企画」について盛り上がりました。新型コロナウイルス感染症によって令和3年に延期されたオリンピックとパラリンピックでは、一宮町オリンピック推進課との連携で、オリンピック聖火リレーのロゼットメダルを製作し、パラリンピック一宮町採火式に参加しました。東京2020パラリンピックの聖火に本校児童生徒の「心の火」が加わっていたことは、本校の誇りです。

なお、一宮町とは、「上総国一宮まつり」の交流を平成30年より行っています。

美しい自然の中で、地域の皆様に支えられ地域と協力し合い、本校の児童生徒は健やかに成長しています。



釣ヶ崎海岸清掃活動



サーフィン教室

一方で、海から400m、海拔5m、近所には高台がないという立地環境は、現在地への移転以来、津波からの避難課題を内包していました。それは、平成23年3月11日に発生した、東日本大震災による津波被災の衝撃により、改めてクローズアップされました。

以降、避難計画の抜本的な見直しと、海の恵みに頼ってきた教育課程の見直しを図りました。

「かけがえのない命を守る」ための課題解決について、1000か所ミニ集会などを活用して地域と連携して検討しています。

2 課題 ～地域に支えられてきた本校が、地域に貢献できることは何か～

本校の魅力である「特色ある教育活動」の三本柱は、「長養太鼓による情操教育」、「オリパラ教育」、「防災教育」です。どれも、地域の御協力に支えられてきました。

特に、「防災教育」では、津波からの避難のための情報や避難場所の提供等で、自治会、民間ゴルフ場、町役場など、地域の自治会、事業所、行政機関から多くの御支援を賜ってきました。

そして、令和2年度には1000か所ミニ集会にて、本校の津波からの避難計画を地域の方々にも検討していただきました。その中で、本校の防災教育を地域に生かすこともできるのではないかという意見が出されました。また、防災教育に限らずに本校の魅力ある取組をより積極的に地域に発信していけるとよいのではとの意見も頂戴しました。

今後は、特別支援教育のセンター的機能の充実を図るだけでなく、防災安全の視点も含めた地域貢献について検討し、企画していきます。

3 課題解決のための取組

(1) 伝統的な取組の継承発展

① 地域相談会

平成24年度、地域支援係が地域の方から相談を受けました。車椅子を利用しているお子様が小学校に入学したこと、今後のお子様の身体のこと、それに関する小学校の基礎的環境整備に関する相談でした。地域の相談機関との連携で就学前から事情は聞いていました。改めて本人の実態を把握した上で、本人と保護者の願いを小学校と共有していきました。肢体不自由児童を初めて担任する教員の相談にも応え、自立活動としての身体の動きについての助言を行いました。また、児童本人の自立活動のために、毎月、定期的に本校の自立活動室を使用して、身体づくりに関する相談支援を行うことにしました。学級担任も一緒に参加しました。それが、始まりでした。当初は、袖ヶ浦特別支援学校などの先行校の取組を参考にしました。一年間の取組は本人、保護者、学級担任から大変感謝されました。この取組の総括として、次年度以降も継続していくこと、担当スタッフの充実を図っていくことにしました。

以降、肢体不自由、重度心身障害に関する専門性の高い職員の協力を徐々に拡大していき、現在は支援部と自立活動部が連携して取り組んでいます。

身体の動きについての課題を抱えている幼児児童生徒、保護者、教員及び関係者への支援の機会を目的として、毎年、毎週水曜日の午後に実施しています。



本人の課題を保護者と学級担任とも共有
家庭や在籍校でもできるエクササイズを伝授

②長養太鼓

創立25周年の平成13年に結成された和太鼓のグループです。毎年オーディションでメンバーを募り、現在に至っています。結成21年目の令和3年度は、小学部2名、中学部3名、高等部7名の計12名で編成されています。当初は、結成に先立ち、初代担当職員は一宮町東浪見の和太鼓サークルに出向いて指導を仰ぎ、猛特訓したそうです。全校集会、運動会、文化祭などの校内行事での発表だけでなく、地域入所施設での文化祭、長生地区特別支援教育振興大会（現在の推進大会）、地域商業施設での定期発表など校外での発表も積極的に行い地域に親しまれてきました。また、平成22年の第65回国民体育大会（ゆめ半島千葉国体）では、開会式で演奏して大会を盛り上げました。

和太鼓は、音楽の授業でも各学部とも取り入れています。純粋に太鼓のリズムと音色を楽しむ子から、長養太鼓のオーディション合格、そしてリーダーが担当する大太鼓演者を目指す子まで児童生徒全員がそれぞれの思いで和太鼓に親しみ、情操を育んでいます。

新型コロナウイルス感染症の収束を待ち、今後も地域交流に貢献できたらと思います。また、リモート用の動画配信コンテンツとしての可能性も模索し、企画していきます。



地域入所施設での発表



長生地区特別支援教育振興大会での発表

（2）新たな取組の可能性 ～特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業～

東京2020パラリンピックを間近に控えた平成30年度に文部科学省委託事業としてスタートした本事業ですが、本校でも地域の小中学校にボッチャ用具の貸出を行うとともに地域の小学校へ職員を派遣してボッチャの出前授業を行ってきました。なお、本校が所属する東上総地域では、開始年度から令和2年度まで、東金特別支援学校が拠点校としての役割を務めてきました。そして、東京2020パラリンピックの開催年である令和3年度より、本校が拠点校としての役割を引継ぎました。東京2020パラリンピックの終了に伴い、本事業も終了するかもしれませんが、しかし、本校としては、事業の理念を引継ぎつつ、パラリンピックレガシー活用の可能性を模索しながら障害者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施し、地域における障害者スポーツの振興と普及・啓発に尽力していくことで地域に貢献できたらと考えています。そこで、今年度は東京2020パラリンピックのメダル獲得で改めて注目された「ボッチャ」を題材に、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策にも留意して、本校と地域の体育館をオンラインでつないだ「障害者スポーツ大会（ボッチャ体験）」の開催を計画しています。

今後は、地域の皆様が気軽に障害者スポーツを楽しめるための、持続可能なイベント企画を、地域の行政機関、各種学校、民間ボランティア、総合型地域スポーツクラブなどとの連携の在り方を模索して、拠点校としての責務を果たしていきます。

(3) 津波に対する地域との防災連携

①本校の防災教育

平成24～25年度、県教育委員会指定の「命の大切さを考える防災教育公開事業」に取り組みました。東日本大震災の教訓に学び、避難計画を抜本的に改めました。近くに高台がない本校は、遠方の高台に避難するために、スクールバスや職員の自家用車に分乗して避難する計画を作成しました。海拔50mの一の宮カントリー倶楽部の協力を得て、スクールバスでの避難訓練を重ねました。また、遠方の高台を目指す計画だけでなく、より短時間で最寄りの一番高い場所を目指す避難計画も模索しました。本校で一番高い場所は海拔8.6mの2階でした。そこで、近隣の船橋市立一宮少年自然の家の協力を得て、海拔10mの3階まで徒歩で避難する訓練も行いました。平成25年3月に、海拔11.2mの屋上に避難するための非常用外階段が設置されて以降は、車両による校外避難と屋上への避難の二本立てで訓練を重ねました。



職員の自家用車による
校外への避難訓練



スクールバスによる
校外への避難訓練



近隣の船橋市立一宮少年自然の家への避難訓練



屋上への避難訓練



小学部 ぼうさいダック



中学部 防災カルタ



高等部 非常口・消火器マップ

「命の大切さを考える防災教育公開事業」を契機に、それまで実践してきた防災教育を整理して教育課程の改善を行いました。小学部は、身の安全を守る一次避難の動きを「ぼうさいダック」ゲームとリトミックで学びました。中学部は、職業・家庭で防災リュックを作り、総合的な学習の時間で地震や津波について調べました。調べたことをカルタにまとめ、繰り返し楽しみながら避難の基本を覚えました。高等部は校内の非常口や消火器の位置を配置図にま

とめて掲示しました。避難訓練とこれらの学習の取組は、平成24年度ぼうさい甲子園で「津波ぼうさい賞」を受賞しました。しかし、画期的だったはずの校外への車両避難や屋上への避難は、いつしか訓練のための訓練になっていきました。そして、各学部の関心がオリパラ教育へと向くにつれて、防災教育は次第に前年度の踏襲となりました。そんな折の平成30年度、もっと身近な題材で防災に迫ってみようと、小学部4年生の二人組が、天気と温度から熱中症で気を付けることや自分の心の天気についても自覚して、雨(泣きたいとき)や雷(怒りが大爆発しそうなどき)の場合の対処方法などを学び始めました。学習内容は、簡単な歌詞にして歌いました。繰り返し歌うことで学習内容が定着しました。歌が好きな二人からは、「もっと学習したい」という学びに向かう姿勢が顕著に表れ、防災訓練の事前事後学習としても活用されるなど、マンネリ化していた防災教育のカンフル剤となりました。楽しく歌って学ぶその取組は「ラップ♪防災」と名付けられました。子供の学習の様子を紹介して防災についての情報発信を考えた保護者と学校の思いが重なり、「YouTube 長生特別支援学校チャンネル」を開発して動画投稿を行いました。令和3年9月現在で、43作品を配信しています。反響は大きく、あっという間に二人は校内でスターになりました。しかし、本人たちは変わらぬ自然体で学習を続けました。二人のユニット名「なちゅりー」が「ありのまま」「自然体」の意味から由来しているそのまを表現していました。

二人の動画は、他のクラスの授業導入で活用されるようになり、本校の防災教育は、再び活気付きました。高等部は、校外の避難場所について実地踏査を行い本当に避難できる場所なのかを体験する学習も始めました。再燃した防災教育の取組は、ぼうさい甲子園において、平成30年度と令和元年度に再び「津波ぼうさい賞」を受賞し「withコロナ」がテーマに加わった令和2年度は「優秀賞」を受賞しました。



高等部 避難場所確認

については、「階段そのものが怖い」という高等部生徒の率直な感想もあり、命を守るための訓練について、安心安全の意義を改めて考えさせられています。

②地域との連携

令和2年度の教育活動は、「コロナにめそめそするならば、ぼくらはコロナで学んじゃおう」と歌う「ラップ♪防災」に象徴されるように、感染症を恐れるだけでなく、どうしたら安心安全に学習できるのかを教職員と児童生徒が考えて、感染症対策を学び、その上で可能な限りの学習活動を展開しました。リモートによる授業や集会の模索。各種行事の見直しと創意工夫。地域交流を楽しみにしていた文化祭も非公開となりました。そのような状況にPTAの企画で、行政や



ラップ♪防災No.36 告知ポスター

令和3年度の「ラップ♪防災」は、二人組ユニットなちゅりーの学習発表だけでなく、新任教員の研修発表、全校児童生徒の学習発表と、みんなの「ラップ♪防災」化を図っています。そして、避難訓練の反省は、これまでの職員だけの反省ではなく児童生徒にもアンケート形式で振り返りの時間を設定して取り組んでいます。屋上避難

福祉関係機関を含めた地域の方々から、本校児童生徒に向けた応援の言葉を、木の葉を型取ったメッセージカードに書いてもらいました。そして、それらを貼り合わせて、大型掲示物の「長生特別支援学校～絆の木～」を制作しました。その大作が文化祭で披露されると子供も大人も勇気をもらおうとともに地域の絆を実感しました。



PTA 制作 長生特別支援学校～絆の木～
縦 1.8m × 横 3.2m

防災教育の推進と発展には、地域との連携は不可欠です。

令和2年度の1000か所ミニ集会では、「地域で取り組む防災教育」をテーマに本校の防災教育の現状を報告した上で、「もし10m級の津波に襲われたら地域や学校はどうするか」という問題について、地域の消防、防災行政担当と福祉関係者を招き、保護者代表も加わり、パネルディスカッションを実施しました。災害時の避難支援や合同避難訓練が話題に上がりました。避難の在り方や訓練の在り方についても厳しい指摘をいただきました。また、校舎移転の話題は何度も上がりました。講師の千葉科学大学危機管理学部教授の藤本一雄先生からは、年度始めから本校の避難計画についての指導助言を繰り返し仰ぎました。地域の皆様の御意見は、本校だけの取組で行き詰まっていた防災教育と避難計画に、一筋の光を与えてくれました。今後の連携強化についても確認でき、地域の支援を本当に頼もしく感じる事ができた集会となりました。

4 今後の方向性 ～地域の共通課題「津波の脅威」への現実的な地域連携～

「3 課題解決のための取組」を推進することにより、地域に貢献できることは何かを検証して、よりよい地域貢献の在り方を探っていきます。そのことが本校だけの自問自答に陥らないように、現在の開かれた学校づくり委員会をコミュニティスクールに発展させて、より広く地域の声を聞き地域のニーズに見合った地域貢献を目指します。

当面の取組として、令和3年度の1000か所ミニ集会では、「地域で取り組む防災教育」のテーマを継続します。現在集約中の事前アンケートによる意識調査では、保護者、職員、地域の住民、放課後等デイサービス、小中・高等学校のほとんどの皆様や機関が津波の不安を抱え、本校に求めることとして高台への移転を上げていました。昨年度のミニ集会でも高台への移転は話題に上がりました。その中で、「遠方への移転や他の特別支援学校への分離による消滅は困る」、「これまでどおり地域の特別支援学校としてあり続けてほしい」という意見を頂戴しました。

地域に愛される学校として、地域の共通課題である「津波の脅威」の問題解決のために、「本校の児童生徒を含む地域の子供たちへの大津波発生時の支援について、地域は何かでき、何をすべきか」について、本校がこれまでの防災教育で培ってきたスキルや情報を提供しつつ、地域の安心安全のための協議ができればと計画しています。地域連携発展のためには、地域行政機関との連携強化に加えて、地域の学校間連携にも力を注ぎたいと考えています。各校の防災安全計画や危機管理マニュアルの課題を共有し、担当者間で相談し合える関係の構築を目指します。各学校の地域連携ネットワークを共有できれば、連携の効率化にもつながるはずです。これらの旗振り役を担うことでも、地域に貢献できるのではないかと考えています。

本校の教育目標である「夢に向かって輝け！笑顔！ みんなで心豊かにたくましく」の具現化のためにも、これまで以上に地域から愛される学校となるように努めていきます。



オリパラ教育 2019年7月/小学部



オリパラ教育 2019年9月/中学部



オリパラ教育 2021年/全校
オリンピック聖火リレー用ロゼット製作



オリパラ教育 2021年/全校
パラリンピック聖火リレー宮町採火式

開催予定 令和3年5月13日
千早鳥立生特別支援学校 校長 田中 均 定

地域相談会について (御案内)

貴校の員、員職におかれましては、ますます御理解のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に熱心な御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、本校では地域交流の一環として、身体の動きについて心配をされている幼児児童生徒、保護者、教員及び関係者を対象とした「地域相談会」を下記のとおり開催いたします。
つきましては、御多用の中にもかかわらず、貴校間の関係者の方々に参加をいただきたいと思いますようお願いいたします。

期

1 目的 身体の動きについて心配をされている幼児児童生徒、保護者、教員及び関係者への身体面、生活面などの相談、支援の機会とする。

2 対象 一言町、越前町、長岡町、長町町、長生村に在住の幼児児童生徒及びその関係者

3 日時

令和3年	年 次 第 日	時 間
6月23日 (水)		
7月14日 (水)		
8月25日 (水)		
9月22日 (水)		
10月27日 (水)		15:45 ~ 16:30
11月17日 (水)		(水曜は14:00~)
12月22日 (水)		15:30とする
令和4年		
1月22日 (水)		
2月16日 (水)		

※当日は変更になる場合があります。

4 会 場 千早鳥立生特別支援学校 自校活動室

5 内 容 身体面、生活面、学習面についての相談及び支援

6 申込方法 ・6月の地域相談会につきましては、6月10日までに電話にて申し込みをお願いいたします。7月以降につきましては、各月の相談日の1週間前までに、電話にて御連絡ください。
・お申し込みの連絡を受け付け次第、事前に担当していただく相談申込書の記入や当日の出席等について連絡させていただきます。
・年度途中で、相談に応じます。お気兼ねなく御連絡ください。

お申し込み先及び連絡先
千早鳥立生特別支援学校
〒729-4305 長岡一言町長岡東67-67番地7
TEL: 0475-42-2470
FAX: 0475-42-2470

地域相談会 令和3年度案内文書 5/18付
東上総教育事務所、地域の教育委員会
地域の幼稚園、保育園(所)、小中学校に送付

いってきました♪ 表彰式(ひょうしょうしき)
ぼうさい甲子園 津波ぼうさい賞

平成31年1月13日(日)

表彰式 立派な姿で臨みました。

班に力加わりの交流会に参加しました。

全園から集まった大勢の受賞者と関係者の前で、ラップ♪防災を堂々と披露しました。会場は、興奮のつぼみと化しました。スーパードル、スーパードル、スーパードルの舞臺でした。

兵庫県立生特別支援学校

防災教育 2019年1月
平成30年度ぼうさい甲子園表彰式

今年も行ってきました♪ 表彰式(ひょうしょうしき)
ぼうさい甲子園 津波ぼうさい賞

令和2年1月12日(日)

立派な態度で臨みました。

2日連続ラップ披露! 前回の口を覚えています。

兵庫県立生特別支援学校

防災教育 2020年1月
令和元年度ぼうさい甲子園表彰式

新型コロナウイルス感染防止対策&地域連携&防災計画の見直し改善
3年連続の受賞!! 今年度は
2020 ぼうさい甲子園 優秀賞

令和2年度ぼうさい甲子園特設サイトは、防災教育のさらなる普及促進と、コロナ禍の取り組みを掲載します。

ラップで防災まなじやおう♪

優秀賞

毎日新聞2020.12.24掲載記事

毎日新聞2021.1.29掲載記事

防災教育 2021年1月
令和2年度ぼうさい甲子園表彰式

優秀賞に東金特別支援学校
「ぼうさい甲子園」
津波ぼうさい賞 長生特別支援学校

優れた防災教育を顕彰する今年度の「ぼうさい甲子園」(17)を構成、お笑い系大のさかい子園(17)を参考に、避難防災未来館(毎日新聞)行動をりんかした防犯社と主催で、県で表現した動画内からは東金特別支援学校(優秀賞)、防災と題してイン県立長生特別支援学校(ネット)上で確信「津波ぼうさい賞」たり、曲をCD化しに録いた。それそれ災たり、曲をCD化し力や障害に配慮した取り組みなが評価され、海岸から約400メートルの距離にある長生特別支援学校は、災害や安全に関する課題を「ネット」の防災教育に用、東金特別支援学校や安全に関する課題を「ネット」の防災教育に用、動画を教材にして他の児童・生徒も歌った(栗山肇)



訓練で机の下に逃げ込む児童—長生特別支援学校提供

防災教育

← 毎日新聞
2019.12.5 記事

令和元年度
ぼうさい甲子園
津波ぼうさい賞

ラップで防災まなんじゃおう♪

学校や地域での優れた防災教育を顕彰する今年度の「ぼうさい甲子園」(17)防災未来館(毎日新聞社)が「優秀賞」に輝いた。災害や安全に関する言葉やラップで表現するラップの防災が原動力となり、3年連続の入賞となった。同校によると、2018年11月5日の「津波防災の日」にあわせ、津波からの避難に関する学習成果などを教師がラップ音楽に仕立てたのが始まりだった。当時小学部4年だった児童2人が音楽ユニット「ななめり」を結成。それ以来、インフルエンザの感染予防、新型コロナウイルス感染症予防のための手洗いなどをテーマにした動画を制作し、インターネットに配信するなどしてきた。



「ラップの防災～新しい生活様式～」の動画の撮影風景—県立長生特別支援学校提供

児童2人の活動 原動力に

今年度は新型コロナウイルスの影響が続いている中、今年度の「ぼうさい甲子園」(17)防災未来館(毎日新聞社)が「優秀賞」に輝いた。災害や安全に関する言葉やラップで表現するラップの防災が原動力となり、3年連続の入賞となった。同校によると、2018年11月5日の「津波防災の日」にあわせ、津波からの避難に関する学習成果などを教師がラップ音楽に仕立てたのが始まりだった。当時小学部4年だった児童2人が音楽ユニット「ななめり」を結成。それ以来、インフルエンザの感染予防、新型コロナウイルス感染症予防のための手洗いなどをテーマにした動画を制作し、インターネットに配信するなどしてきた。

防災教育

毎日新聞 →
2020.12.14 記事

令和2年度
ぼうさい甲子園
優秀賞

学校を核とした県内1000か所 11月22日(金)
三二集会 本校体育館
2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて進捗できること
保健者、地域住民、関係福祉機関、行政、避難学校職員、等々40人を超える参加者により、大盛況の集会となりました。

高等部代表生徒より、オリパラ教育の学習報告をしました。

かんかん かくかく 侃侃 諤諤

学校を核とした県内1000か所 2020/11/25(水)
三二集会 本校体育館
地域で取り組む防災活動
九十九里・外房地区に10m級の大津波警報が発令されたら、本校と地域は、どのような対応をとったらよいか?!

屋上避難 の課題
・車椅子利用者生徒の安心安全な避難
・天候による屋上利用の限界

車両避難 の課題
・道路は使用できるのか? (破損、渋滞)
・群衆不自由のある児童生徒の安心安全な避難
・オーダーメイド車椅子を学校に置き去りにする??

学校、家庭による「自助」
事前
●学校: 危機管理マニュアルの作成(+訓練)
●家庭: 災害避難カード等の作成(+訓練)
●養育者
●学校: 危機管理マニュアルに付いた避難行動
●家庭: 災害避難カードに付いた避難行動

学校、家庭、地域による「共助」
事前
●学校: 危機管理マニュアルの家庭・地域との共有(十進録録簿・方法[スクール(不利用)]の情報も共有)、など
●養育者
●学校: 地域からの情報提供を受け入れる体制
●家庭: 地域からの情報提供を受け入れる体制

まとめ(パネルディスカッションに向けて)
●「長生特別支援学校の児童生徒の【命】と【心】の両方に配慮して、何をすべきか(防災)について話し合う。
●対策(重点の報告)を話し合う。まずは、「自分(家)でできること(防災)を話し合う。自助・共助」で考える。
自助>共助>互助
無災害>無災害>無災害

司会者 6名のパネリスト

1000か所三二集会(左)2019年:オリパラをテーマに/(右)2020年:地域防災をテーマに開催



一宮町との文化交流 (左)2018年初参加/(右)2019年一宮町町長を連に迎えて



- 01 ラップ♪防災 version.1 (天気と温度) 2018/11/26
https://youtu.be/SUqYi_jChKBw
- 02 ラップ♪防災 version.2 (心の勉強) 2018/11/26
https://youtu.be/qLN_zCTCMw
- 30 ラップ♪防災～防災さんぽ～ 2019/12/12
https://youtu.be/dS5_CvvR1Q4
- 36 ラップ♪防災～新しい生活様式～ 2020/8/7
<https://youtu.be/KFJCeNc3dmk>
- 42 ラップ♪防災 2021～1学期の避難訓練～ 2021/8/1
<https://youtu.be/jy8-HVAbMEw>
- 43 ラップ♪防災～心肺蘇生法♥命をつなげ～ 2021/8/31
<https://youtu.be/FwykHZ40UGs>

YouTube「ラップ♪防災」URLリンクの一部

YouTube
長生特別支援学校チャンネル



QRコード

- ・各動画の概要(説明)欄には全動画のURLリンクを張ってあります。
- ・臨時休校時の家庭学習用動画教材も配信しています。